

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有
〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

無料

第69号

毎月発行

発行 2018年(平成30年)2月16日 金曜日

2018年(平成30年)2月16日 金曜日

【当新聞発行責任者
兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、64歳、経営コンサルタント、趣味は、縄文文化研究、この2月に株式上場プロフェッショナルを養成し、IPOの経営者教育も行うスクール『IPOマスタースクール』を開校、校長就任



連載企画② 「東北アイデンティティ—発掘」

【“東北先史時代学”が目指すもの】

「東北先史時代学」 連載宣言

新年号で唐突に「東北先史時代学」創設を提唱した。しかし、中身についての説明はほとんどしなかった。東北復興と「東北先史時代学」の関係については触れたが、その中身についてはほとんど触れなかった。やはり、その中身や、あるいは目指すところについてもっと詳しく説明する必要があると思う。関連する分野も多岐に亘るので、一回や二回では済まないことも当然である。



なおかつ、震災7年目を迎え、東北復興も新たな再スタートを切らねばならないこの時期だからこそ、この企画を連載記事としていくことを宣言したい。またまた唐突ではあるが、連載宣言にあたって最初に筆者自身も含めて、東北に暮らす人たち、東北出身の人たち、東北の復興に関係する人たちに次の質問を投げかけたい。

東北の魂は死んでしまったのか？

大震災直後、「東北魂」を背中に描いたTシャツを

よく見かけた。そのTシャツをプロデュースした人がどんな思いを込めてこの文字を使ったのかは知らない。また、震災直後には、

しかし、この「東北魂」という言葉に突っ込みを入れた人はいないだろう。東北人であろうとなかろうと、なんとなくこの言葉に惹かれたのは確かである。しかし、この「東北魂」とはいったい何か、大震災直後にあらためて「東北魂」という以上、現在は活性化しておらず、あるいは死んでいるというのか、なぜ復興と「東北魂」なのか、この「東北魂」が復活するかどうか、などにつ

いて何の説明もなかった。このままでは、せっかくの「東北魂」というキーワードによる問いかけは何となく感覚的にフィットしているから発した言葉というだけで片づけられ、雲散霧消していきさう。そこで筆者は、この言葉を糸口に、「東北先史時代学」が何を指しているのかを説明していきたい。

そして、東北の魂は死んでしまったのか、まだ生きているのか、活性化させるためにはどうすればいいのかを追及していきたい。

スコットランド魂やカタルーニャ魂は分かるが「東北魂」は、イングランドからの独立を目論むスコットランドにはスコットランド魂があるだろうし、それはどんなものかと聞いたら、スコットランド人なら誰でも知っているし、知っているというよりも身体にしみ込んでいくほどに明確なものだろう。そして逆にいまさら何を聞くのかと言われるだろう。カタルーニャ魂も同じであらう。愚問だと一笑に付

されるだろう。「東北魂」との差は歴然としている。この「東北魂」には明確な説明がつかない。当然、「東北魂」を体現しているという人にも会えないだろう。

しかし、「東北魂」という言葉には何か知らないが揺り動かされるのだ。おそらく何も感じない東北出身者や東北在住者はいないと信じていた。

まつろわぬ民

古来、東北に居住する人々は蝦夷(えみし、えびす、えぞ)と呼ばれていた。それは縄文時代からではなく、大和朝廷が成立したときからであった。大和朝廷から続く歴代の中央政権から見ると、蝦夷は、日本列島の東方(現在の関



旧石器時代の遺跡



縄文初期の遺跡



縄文中期の遺跡



縄文後期の遺跡



最後のまつらわぬりリーダー：アテルイ像

日本史に登場する最後の東北のまつらわぬ民、蝦夷といえ、アテルイ、モレ

奪され続ける東北というのは、逆説的にいえば、さまざまな豊かさを有していたのだからともいえる。

東北の先史時代 前頁にあるように、旧石器時代と縄文時代を通じて、東北の遺跡数はかなりの数にのぼる。

東北アイデンティティ 発掘の旅は長い ともかく、何か「東北魂」といえるものの存在をぼんやりと感じつつ、明確には答えられない状態をこのままにはしておきたい。

東北から日本を変えるということ 最後に、東北は辺境文化ではないと言いつつ、この国の文化は東北から誕生したと言おう。

東地方と東北地方)や、北方(現在の北海道地方)、(現在の樺太)などに住む人々を異端視・異族視した呼称でもあった。

数十年に亘る大和朝廷による侵略戦争を戦った末に、一時は大和朝廷に降伏した。それが延暦二十一年(西暦802年)のことだった。

奪され続ける東北というのは、逆説的にいえば、さまざまな豊かさを有していたのだからともいえる。

を再現してみるのも今後のテーマにしたい。 いまでは想像もできないかもしれないが、かなり豊かな東北像が導き出せるのではないかと感じる。

東北の先史時代 筆者はさらに、東北での公共工事の少なからず、実際に遺跡密度は高かったと考えている。

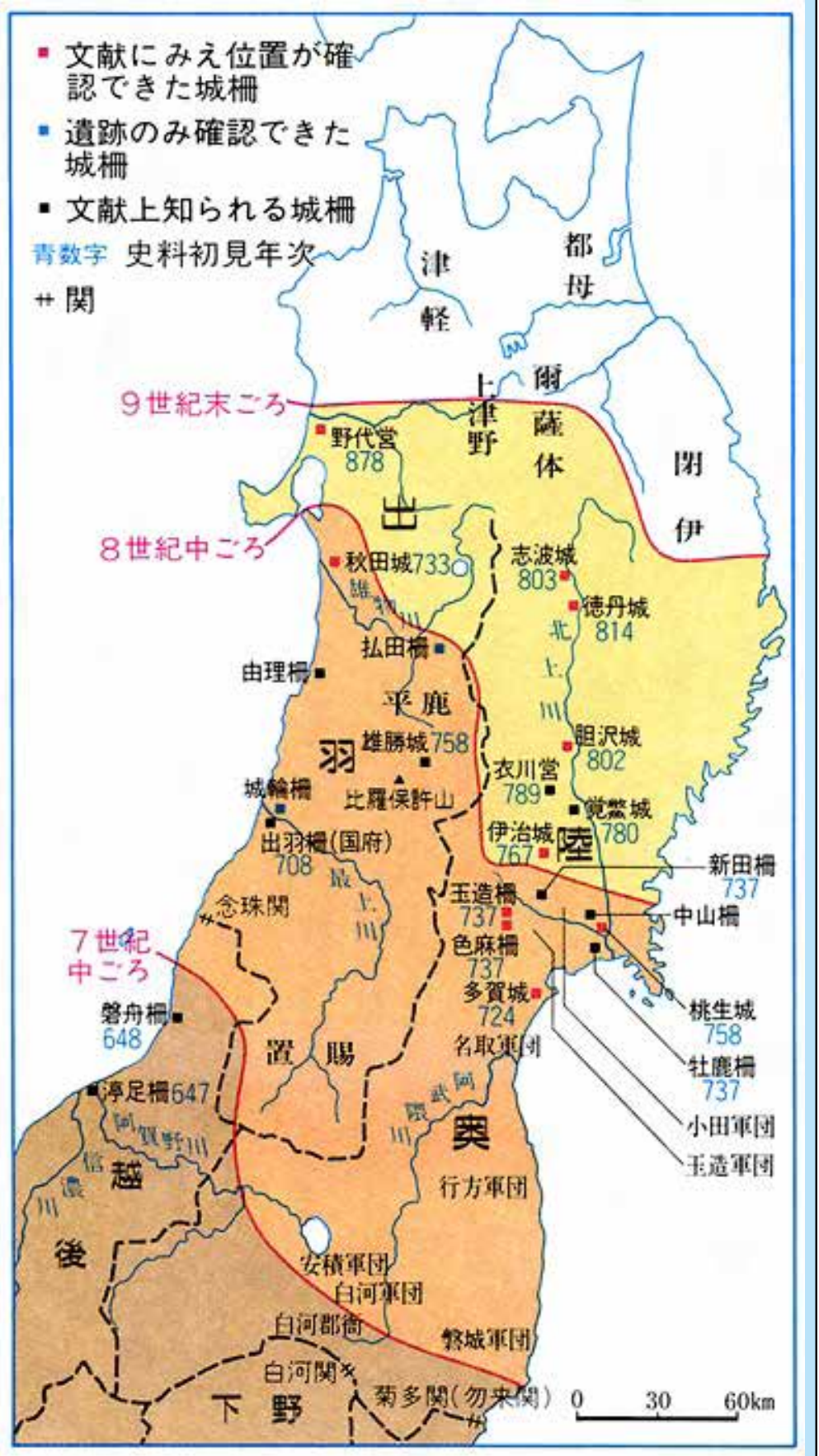
いつたのであろうと考える。 悲しいかな、礎になったのが略奪行為の結果であったということである。

しなないと思う。 略奪され続けた東北の歴史はなおさらである。そしてその歪曲は今も続いている。

と考えている。 東北アイデンティティ 発掘の旅は長い ともかく、何か「東北魂」といえるものの存在をぼんやりと感じつつ、明確には答えられない状態をこのままにはしておきたい。

プロロチではなく、東北文化とは何かというアプロロチでもなく、いつ、どこから、どうやって、東北がスタートしたかを考えてみる。と、こんがらがった糸がすんなりとほどけてくることを期待して「東北先史時代学」の研究を進めていこう。

最後に、東北は辺境文化ではないと言いつつ、この国の文化は東北から誕生したと言おう。 これも十分に説明可能であると考えている。(続く)



大和朝廷の東北侵略の経緯

東北先史時代学の実践プロジェクト 長根貝塚保存活動開始

ボランティア個人による保存活動は可能か



国指定遺跡 長根貝塚 説明板

東北先史時代学は、考古学者のように発掘はしないが、かといって、机上の勉強会のみ運営とか、諸資料を編集しての研究活動や著作活動をするだけの活動を目指すものでもない。多くの同好の士を募って、この東北先史時代学のために沿った具体的な活動もしていきたいと考えている。その第一のプロジェクトとして取り上げるのは、放置状態にある東北の縄文遺跡の保存活動である。

最初に取り上げるのは、筆者の郷里である宮城県遠田郡涌谷町にある「長根貝塚」である。この貝塚は、今から47年ほど前に発掘調査され、国指定遺跡となったが、その後は完全に埋め戻され、石碑と説明板のみが、ここに貝塚があることを示すのみとなっている。宮城県でも有数の貴重な縄文貝塚で、三内丸山遺跡より古いにもかかわらず、こうした状態になっているのは嘆かわしいし、最新技術を用いた研究もこのままでは不可能である。

携などを図っていきいたい。しかも民間ボランティアとして、この貝塚保存活動を開始していく。すでに考古学関係者のアドバイスも受けて具体的な活動を開始した。町の関係者にも接触を開始した。今後、この活動の経過報告も行っていく予定である。

とはいえ、国に働きかけて、この貝塚の再発掘と再調査をしようというのではなく、資金集めや、町を巻き込んで、自ら再発掘・再研究団を組織し、また町の観光資源としての活用。さらには東北の縄文時代の独自研究他の東北の縄文遺跡との連

涌谷町生涯学習課文化財保護班による長根貝塚解説

貝塚とは、長い年月の間に昔の人々が食べた貝の殻が堆積してできた遺跡です。貝塚には、魚や動物の骨など食料の残りかす、壊れた土器や石器なども捨てられました。長根地区にある長根貝塚は昭和43年に発掘調査された結果、東西300m、南北250mの範囲で「U」字の形に貝層が広がる、県内最大級の縄文時代の貝塚であることが判りました。貝層は縄文時代早期末から晩期(約6000〜2300年前)までの長期間にわたります。貝層の貝の種類を見ると、早期末頃の貝層はカキやハマグリなどの塩分が濃い水(鹹水・海水)で育つ貝が主体となることから、現在の小丘陵周辺の低地部は、海であったと考えられます。しかし、前期末から中期末頃の貝層はヤマトシジミなどの海水と淡水が混ざり合う汽水産の貝が主体とな



いまはすっかり埋め戻されている長根貝塚



貝塚の上では農業が営まれている



発掘土器の一部



マジョリティーの女性陣

女性パワー炸裂 第31回 三陸酒海鮮会 2018.2.3 渋谷焚火家

新年初の三陸酒海鮮会は、節分の日の二月三日に開催されます。
この会は2013年四月を第一回として、次回で三十一回目を数え、足掛け六年に亘るロングランの三陸支援の会となっております。
この間、開催場所の渋谷・焚火家のオーナーやスタッフの方々に支えられ、また数多くのご参加いただいた方々に支えられてここまでまいりました。
今後も引き続き、この会の存続と三陸被災地復興支援のために、ぜひご支援のほどお願い申し上げます。



東北地酒ラインアップ



豆と恵方巻



第42回 水産業再興のための 料理レシピ紹介

酒飲みには 垂涎ものの肴 《ニシンの 切り込み》



郷土料理愛好家
松本由美子氏

【材料】 ニシン 500 g、麴 50 g、塩 20 g →ニシン 4%、砂糖 35 g →ニシン 7%、赤南蛮 輪切り少々

【作り方】

①ニシンを3枚におろし、骨をそぎ落とします。0.5センチの厚さに切ります。②5%の塩水にニシンを晒し、血抜きをします。5～6回、綺麗な水になるまで取り替えます。③麴をぬるま湯に浸します。(ラップをかけ、蒸らしておきます)④ニシンは、キッチンペーパーで、よく水分をふきとります。⑤麴に砂糖、塩を入れフードプロセッサーで軽く溶かします。(半分)⑥ニシンと麴を混ぜ合わせ、この時に赤南蛮の輪切りも入れます。3日～7日で食べれます。

写真でお伝えする

写真撮影:尾崎匠

東北の風景(冬の鳥・湖・雪山)



「平泉町観光振興計画」(案)への意見書

1月27日、28日の2日間、岩手県一関市で「第18回平泉文化フォーラム」が開催され、私も参加してきた。毎年基調講演、発掘報告、研究発表が行われ、平泉研究の最先端に触れることができるイベントである。

今回、1日目終了後の宿泊は、あえて一関市内ではなく、平泉町内にしてみた。これまで平泉は何度も訪れているが、訪れるのはいつも昼間だけで、夜の平泉がどのような感じか興味を惹かれたのである。また、2日目は午前中で終了だったので、終了後再度平泉を訪れた。2日間平泉を訪れて感じたことがいろいろあった。折しも平泉町が新しく「平泉町観光振興計画(案)」を作成し、それについての意見を募集していた。そこで、今回の平泉散策で感じたことや、以前から平泉観光について考えていたことなどについて意見書としてまとめて、平泉町観光商工課宛に送付した。

以下がその意見書である。――
「平泉町観光振興計画(案)」を興味深く拝見しました。その上で考えたことについてお伝えしたいと思います。要点は以下の3点です。
①世界遺産以外の観光資源の活用について
②平泉観光において連携すべき相手について
③「夜の平泉観光」の仕掛けについて

①についてですが、私は今回、一関市内で2日間開催された「平泉文化フォーラム」に出席しました。その折に、1日目の宿を平泉町内に取り、また2日目終了後に久しぶりに平泉町内を散策しました。その際に感じたことは、端的に申し上げれば、平泉観光は現在、あまりに世界遺産に頼り過ぎているのではないかと感じています。平泉町内の

光案内所で入手できる町内のマップには、世界遺産の構成遺産5つと追加登録を目指している達谷窟毘沙門堂、柳之御所遺跡、それに高館義経堂などが掲載されています。今回の「平泉町観光振興計画(案)」の「1-2 主な観光資源」のうち「1-2-1 史跡・名勝」として挙げられているのもこれらですし、「資料4 平泉町の観光資源の再確認」で挙げられているのも概ねこれらですが、平泉の観光資源はそれらに留まるものではありません。

白山妙理堂や熊野三社は奥州藤原氏と白山信仰、熊野信仰との関わりが感じられて興味深いですし、照井堰なども高館合戦の折にその名前が登場する照井太郎高春の伝承があり、興味を惹かれます。歴史好きにとつては、芭蕉の「おくのほそ道」にも出てくる泉ヶ城(和泉が城)も目にしたい場所でしょうし、国衡や高衡(隆衡)の館の比定地もあります。四方に配置したという鎮守社跡を巡るのも楽しそうです。

これらは現在学校であったり民有地であったりとして観光スポットとするには難しい面もあるでしょうが、園地として整備せずとも今の伽羅御所跡のように、可能な場所に案内板を設けるだけでも散策ルートとなり得ることでしょう。

そうした隠れた観光資源についても積極的にPRしていかなければ、平泉は一度来て構成遺産を一通り見たらそれで終わりで、二度とは訪れないスポットとなってしまうか悩まれません。そうではなく、最初は有名な世界遺産、その次は少しマニアックな、ディープな場所を巡る、というように、次にも来る楽しみがあるようなことが分かる情報提供が必要であると考えます。

今回、観光案内所におられたガイドの方に「世界遺産と達谷窟、柳之御所、義経堂以外にどこか見るべき場所はありませんか？」と尋ねたところ、「それらを見ているならあとは特にないねえ」とのお返事で、少し残念な思いをいたしました。

私としては、「平泉は単に世界遺産だけの町ではない」ということを強く訴えたいです。他にももっと面白い魅力の場所が平泉町内にあります。まずは地元の方々こそ、まずは地元の方々こそにそのことを再度確認していただければと思います。

②については、「4-1 観光施策の内容」では、「基本方針3 広域連携による平泉町の魅力の向上」という伝承がある秋田県鹿角市、その他奥州藤原氏時代の金山があったと考えられる東北各地の自治体も連携の対象となり得ます。また、平泉の柳之御所遺跡で多数出土することから「平泉セット」と名付けられた、平泉型づくねかわらけや白磁四耳壺が出土する遺跡が、青森から福島まで、平泉以外にも東北地方にはた

くさんあります。これらの遺跡を有する自治体とも連携して、平泉遺産の面的な広がりを重視していただければと考えます。

平泉の歴史遺産は平泉だけのものではなく、かつ平泉の歴史遺産は平泉だけに留まるものではありません。平泉とこれらの地域とをつないで共同で行う観光キャンペーンや情報発信などを通して、平泉と関係する自治体とがWin-Winとなるような方をぜひ講じていただきたいと思います。

③については、「2-1 2町の観光の問題点・課題、可能性」の中で、「多くの観光客が通過型の観光」と指摘されていますが、私も実は平泉町内に宿泊したのは初めての経験でした。平泉にはこれまで何度か足を運んでいますが、いつも昼間のうちに町内を回り、夕方には移動するという形でした。

その理由を考えてみますと、まず宿泊できる場所の少なさがあります。ツアー以外の個人客が宿泊場所を探る際に利用するのは多くは「楽天トラベル」や「じゃらんネット」などの宿泊予約サイトであると思われるのですが、平泉町内の宿泊施設は「楽天トラベル」、「じゃらんネット」とも3軒の登録にとどまります。それ以外の宿泊施設については、平泉町観光協会のサイト内で紹介されていて、少なくとも町内には7軒の宿泊施設があることが分かりますが、「平泉町 宿泊」で検索

しても平泉観光協会のサイトは30番目(つまり3ページ目の一番下)にようやくヒットする状況で、これでは恐らくあまり見えてはもらえないことでしょう。町が後押しするなどして宿泊サイトへの登録を進めることや、町内の宿泊情報がより上位にヒットするような対応策を講じることが必要と考えます。

宿泊できる場所の数を増やす手段として「民泊」の活用も考えられますが、その際にはそれぞれの民泊場所の特色があることによりよいです。例えば、「平泉の古老から平泉の歴史について話が聴ける民泊」などがあれば、歴史好きの観光客は「ぜひ泊まって話を聞いてみたい」と考える可能性が高いです。

もう一つ平泉観光が通過型に留まってしまう理由として、夜楽しめる場所がないということが挙げられます。平泉町内の飲食店は多くが夕方までに閉店してしまい、夜は一部の居酒屋や焼肉店が営業するのみだということです。この現状では、夜も平泉で過ごすという行動にはなかなかつながらず、平泉の魅力を余すところなく伝えていくことが難しくなっています。その西川さんは「地元はヒトはえていささかなりとも参考になるのであれば幸いです。今後平泉が、東北の一つの時代の在りようを伝える貴重な場所として、たくさんの方に知られ、訪れられる場所であり続けることを願っております。」

この手の意見募集というのは、「広く意見を求めてそれらも取り入れて作り直した」という体裁を整えるために、半ば形式的に行われることが多く、今回提出した意見書の内容もどれほど参考にもらえるものか不明ではあるが、とりあえず私としては、感じたこと、考えたことについては概ね伝えられたつもりでいる。

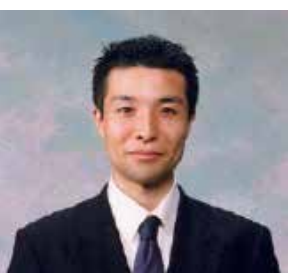
平泉を散策した当日のFacebookに、「プラプラして思ったのが、平泉は世界遺産に頼りすぎじゃないか?ってことでした」と書いたら、友人の西川さんが「黒毛和牛ステーキ屋なんかも黒毛和牛であることに頼り切ってる店が多くて、独自の価値観を訴求できる店がほとんどないんですよ」とコメントしてくれた。平泉が「黒毛和牛である」と以外PRできないステーキ店になつてはいけません。それは平泉の魅力が矮小化してしまうことになる。西川さんは関西出身で現在仙台で仕事をされているが、東北の湯治宿に魅せられてご自身のサイトでその魅力を余すところなく伝えてくれている。その西川さんは「地元はヒトはえていささかなりとも参考になるのであれば幸いです。今後平泉が、東北の一つの時代の在りようを伝える貴重な場所として、たくさんの方に知られ、訪れられる場所であり続けることを願っております。」

執筆者紹介

大友浩平

(おおもともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
<http://blog.livedoor.jp/anagasy/>

Facebook
<https://www.facebook.com/kouhei.ohtomo>



anagasy/

東北の本能的な アナキズムの事

今年も、三月十一日が近づいて、私は当時の寒さとひもじさ、怖ろしさを思い、もはや未来はないかとすら思われた東北そして仙台の街に、今も生きて住む事ができている事への驚きと感謝を新たにするのである。

二〇一一年、冬のあと。私はかの一連の災害の中、大切な家族や友人も、主だった財産も失わずに済んだにもかかわらず、心の中の何か明らかに大きく変化しました。現在に至っている。例えばおそろく福島の子力発電所事故に伴う社会の動きからだろうか、

「政府とは信用ならぬものであり、依存せず、また盲



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出没し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当。

従もせず必要あれば反抗する行動も必要である」という意識をかなり堅固に持つようになった気がする

し、震災直後の生活の混乱、いわばサイババル的な体験からだろうか、「人生において本当に必要なものは何なのか」と常に考えるようになった。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

考えてみれば、このような自分の状況には、どこか心当たりがあった。戦後の混乱期に書かれ、一世を風靡したと言われる坂口安吾による『墮落論』である。

「特攻隊の勇士はすでに闇屋となり、未亡人はすでに新たな面影によって胸をふくらませているではないか。人間は変わりはない。ただ人間へ戻ってきたのだ。」

(中略) 墮ちる道を墮ちることによって、自分自身を発見し、救わなければならない。政治による救いなどは、上皮だけの愚にもつかない物である。」

「不良成年」すなわちアナキキな存在そのものであった。しかしトキキとなり

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

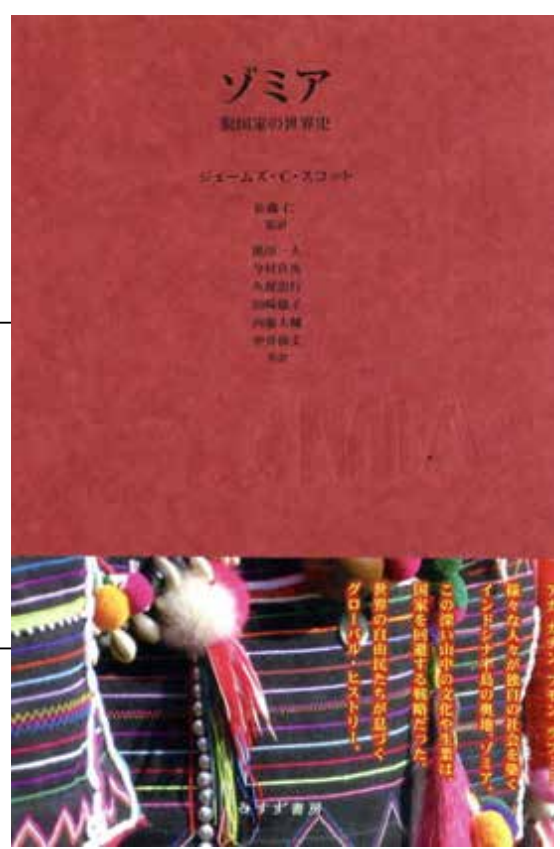
「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。



脱国家の世界史『ゾミア』 ジェームズ・C・スコット著 2013年

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。

「今日が人生最後の日だとしたら、今日やる予定の事を本当にしたいと思うか」と、常に己に問うようになったのである。



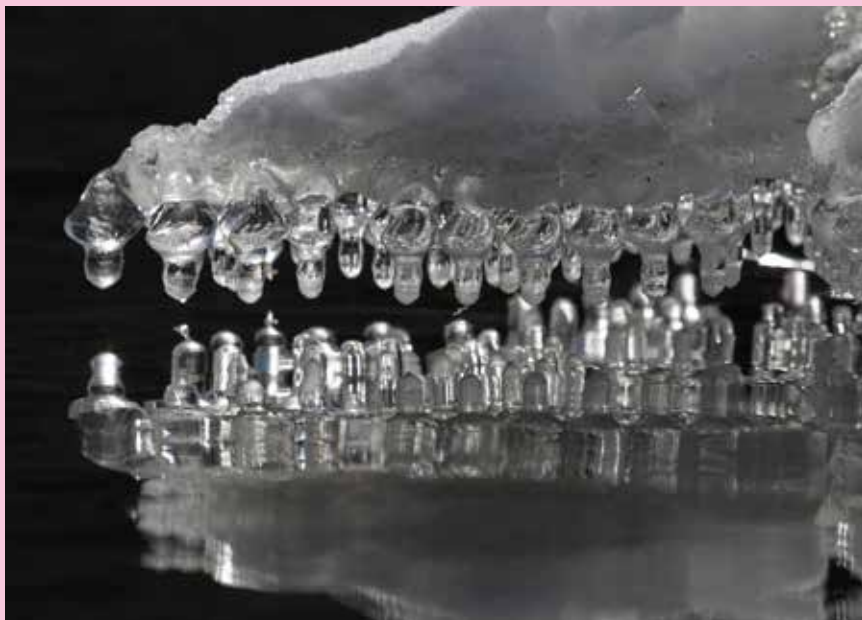
霧氷 2



氷筍



ちょっと怖い



しづき氷

シリーズ 遠野の自然
「遠野の立春」
遠野 1000 景より

もう暦では立春だというのに全国的な寒波で大騒ぎである。寒がりの筆者は、適当な避寒地があればいますぐ飛んで行きたいほどだ。こんな寒波のなかでは遠野の寒さもあまり目立たないのではないかと少し心配していたが、今回号の写真

を見れば安心である。
* 超広角レンズで撮ったという鋭く長いツララ画像はまるで魔物のキバのようだ。氷筍も久しぶり。一度お目にかかりたい。
霧氷2は自然の妙。よほどの吹雪だったのだろう。しづき氷も久しぶり。「遠野の冬のワニ」に会えた。ワニに続いてガマ岩。子供時代に見た忍者映画の巨大ガマを思い出す。
厳寒の風景もすばらしい。カワラヒワの鮮やかな色がとてもまぶしい。
東京ではほとんど見かけなくなったどんと祭はうらやましいかぎりだ。



厳寒 高清水



ガマ岩



どんと祭



カワラヒワ